

## 令和6年度 檜原村村民全体会議

日 時：令和6年5月19日（日） 14時00分～15時30分

場 所：やすらぎの里3階ホール

村側出席者：村長、副村長、教育長、総務課長、村民課長、福祉けんこう課長、  
こども家庭センター長、産業環境課長、議会事務局長、都民の森管理事務所長  
（事務局：企画財政課長以下3名）

参加人数：33人

### 《意見交換》

■去年6会場で地域の対話集会を行いましたよね。その結果として広報ひのはらにご意見がありましたと一覧は出されたのですが、それについて「どうするのか」という事は何も書かれてなく、他の人からも「聞いただけじゃないか」という意見があります。今日の全体集会のやり取り、進め方、今日来ている人は多分村民の5%ぐらい。事情があって来られない人等に対して、今日の集会の結果とか報告について、広報はどのような方法を考えているのか、確認したいと思います。

### →【企画財政課長】

本日は先程説明した令和6年度予算関係についてのご質問をいただきたいと思います。また本日いただいたご意見等につきましては、住民対話集会と同様に取りまとめたものを広報等でお知らせし、会議録もホームページ等で公表を予定しております。更にご意見の内容の必要性に応じ、令和7年度予算、または今年度補正予算を組んで対応することを検討いたします。

■最初に喋らないと他の人も喋れないと思い、私も勇気をもって発言させていただいています。やすらぎの里の大規模改修の予算説明がありましたが、どの程度の改修をするのか、またその工事期間中の施設の利用等について、大規模改修の内容でわかる範囲のご説明をお願いします。

→【福祉けんこう課長】

それでは福祉けんこう課長が答弁させていただきます。やすらぎの里はあちこち修繕する箇所があり、修繕しながらの大規模改修になりますが、先ほど説明させていただいたとおり、まずは検討委員会において協議し、どこを改修するか、費用はどのくらいなのか等を決定していくこととなります。また工事期間中の施設の使用についても、使えないことが無いように検討していく予定です。また、現在は設計段階であり、設計のうえで使えない会議室等が出ないように担当と話している段階です。

■では、これから設計し、検討委員会もしくはその設計担当者の意見を聞いて、仕様などが決まっていくということでしょうか。細かいところは修繕を実施しているので、大規模改修の実施は来年度、令和7年度になるという理解でよろしいでしょうか。

→【福祉けんこう課長】

そうですね。令和7年度以降を予定しております。

→【村長】

今の回答でよろしいですか。納得していないご様子ですが。

■要するに、あちこち悪いというのは小規模でできる。大規模というからには何らかの理由があると思い、イメージというか、こんな使い方ができるようにするには具体的な改修が必要だという、そういう設計理念みたいなものがあると思います。その辺がどうなのか、今の説明では分からなかったもので、検討委員会で議論してやる如果说のであれば、それはそれでいいですが、大規模というからには行政の方でやらなければならない理由、方向性をはっきりさせる必要があるのではないかと思った次第です。

→【村長】

私が村長になるときの政策の一つとして、やすらぎの里は建ててから25年経っている、介護保険制度が始まる以前の施設で、制度の改正等により使われなくなった部屋や、内部、外部ともに傷んでいる箇所が多い等の理由から、大規模な改修をして欲しいと担当に話してあります。業者も交え、住民や様々な方が使いやすい施設を考えてほしい。また温泉施設についても、水漏れや天井が崩れ落ちそうな箇所があるなど、放置すると大変危険なため改修を行うものです。令和7年度から何年かかるか分かりませんが、外観も含め大規模な改修を考えていますのでよろしくお願いいたします。

■資料の主要事業一覧の3ページ目の右側、簡易水道事業会計と下水道事業会計の右側に金額が記載されていませんが、どういうことでしょうか。

→【産業環境課長】

簡易水道事業会計と下水道事業会計については、令和6年度公営企業会計としており、資産なども含み他の会計とは違い予算が示せないものであるため、記載していないということになります。

■聞き逃したのかも知れませんが、205番のサル追い払い用発信器購入費（新）とありますが、これはどういうものなのか、日々サルとの戦いで、寝ても覚めてもサルのことしか頭にない程ここ最近疲れ果てていますので、教えてください。

→【産業環境課長】

No.255 番のサル追い払い用発信器購入費について。こちらは説明をしていなかったのですが、これは追い払い用の発信機として、サルに首輪をつけ GPS で受信ができる装置で、新規の予算となります。檜原村は現在4つのサルの群れがいると考えており、各群れの1頭から2頭、サルの首に GPS で受信できる発信機をつけ、サルの行動範囲を把握するための予算として計上しているものです。今も村では GPS によるテストを行っていますが、より詳細な位置がわかるようにするため、今後住民の方にもお知らせができるように、例えばスマートフォンやインターネット等で、今どこにいるか分かるようにし、自分の地域に来たのがわかる形で公開していければと考えています。サルに関しては、畑はもちろんのこと、自宅に侵入するという話があり、特に北側の三都郷地区から小岩地区あたりまで、自宅の中に入るサルが増えてきているということで、危機的課題と考えており、今年度はサルに特化した形で、緊急的にサルの対策を進めているものです。ただ村だけでできるものではありませんので、住民の方と一体となり、対策を考えていきたいと思っておりますので、ぜひご協力をよろしく願います。具体的には、自宅に侵入するサルについて、入らないようにするのは難しく、専門家より捕獲するしかないとのことで、現在、中里地区から小沢地区に箱を仕掛け、捕獲する対策をとっています。今後はそれ以上のサル対策も秋口にかけて計画していますので、内容が決まりましたら皆様に周知していきたいと考えています。よろしく願いいたします。

■ありがとうございます。サルの首につけて動向見るとというのは、以前からやっていらっしゃるんですね。でも、それって私達には何のメリットもないですよ。なかったですよ。どこにサルがいるのか、どういうふうに動いているのかなど、もっと私達にもわかるような形でやっていただきたい。今ここにいらっしゃるよとか、役場で小沢から中里にもいっばいいるとか、そういう話を耳にして見に行っても、実際にはいないので、いつ来るのか、どこいるのか、気がついたら野菜が全滅しているという状況が今まで沢山ありました。だから発信機ってお話も説明されましたが、私達戦っている者としては、何のメリットも無いと感じています。被害があったら提出してくださいという書類にも、意見欄に書いて出しましたが、何の回答もなく、もっと真剣に取り組んでいただきたいと思っております。少ない年金の中で、余生の楽しみの一つとして作ったものがとられてしまう、作ってもしょうがない、買った方がいいという話はあちこちで聞きます。でも作る楽しみや自給自足の大切さなどを分かっている

ただきたい。その辺も理解していただいて、私達に返ってくるような政策を取っていただきたいと要望します。宜しくお願いします。

→【村長】

今の意見は本当に切実で、サルに作物も取られた人でないと分からないかも知れませんが、手間暇かけ、半年ぐらいかかる作物を取られると「もう作るのをやめよう」という気持ちになります。また、令和6年度の予算が枯渇するぐらい電気柵の補助金要望が来ていると聞きます。各自でも守っていただきたいと思いますが、行政としても担当が説明した通り、家に侵入するサルについては本当に悪質で、これは駆除する以外防ぐ方法はないので駆除します。しかし全滅させると問題もありますので、東京都と相談をしながら許容範囲の中で対応していきたいと思います。担当も一生懸命頑張りますので、まずは今年の成果を見ていただきたいと思います。

→【産業環境課長】

補足ですが、今まで使用していたものはアナログの微弱な電波で、サルに近づかないと受信ができず、猟友会が電波を拾いながら群れの居場所を確認し追い払うという形で行っていました。しかし昨年度からGPSの発信機に切り替えたことにより、インターネットの地図上でリアルタイムに把握できるようになりました。昨年度、今年度とテスト的に首輪をつけて村でも確認をしており、近いうちに関係住民の方に公開することができる状況までできています。そうすれば、自分のスマホで見ることができるようになりますので、ぜひ活用していただければと思います。また、村長が言ったように電気柵を付けるのが一番の対策と専門家も言っております。その次に追い払い、駆除となりますので、村の電柵設置事業をぜひ活用いただければと思います。宜しくお願いします。

■079番の感震タッグ配布経費（新）についてお聞きします。配布時期と1件あたりの配布数、また配布方法などについて説明をお願いします。

→【総務課長】

感震タップについてお答えさせていただきます。まず配布時期ですが、今、入札作業を進めており、夏頃には配れるのではないかとということで準備しています。また各家に1個の配布とさせていただきます、配布方法については、入札事業者が直接配布するということで考えております。

■防災訓練の時に配るイメージですか。

→【総務課長】

そういうご意見もあるかと思いますが、申し訳ありませんが今お答えできませんので、検討させていただきます。

■すみません、先程のサルの話ですが、サルは畑を荒らすだけでなく、保育園とか子供の通学通園のときに威嚇してきたり、子供だけでなく女性に対しても威嚇したりします。それは電気柵ではどうにもできないので、その辺の対策もしていただきたいと日々思っていましたので、お願いします。

→【産業環境課長】

保育園等で威嚇をするサルがいるという情報は受けております。今年度は、保育園のサル対策について、麻布大学という専門的な大学と連携をとり検討、また保育園の保護者等に対して講習会も予定しております。サル対策については畑の被害だけでなく、自宅に入り、その次は人的被害が出るかもしれないという危険性もありますので、その辺も含め対策を進めてまいります。

■サル対策ですが、やすらぎの里の遊具でサルが遊んでいる姿を見たことがあります。そのサルが触れた遊具で子供たちが遊びますよね。でも子供たちはそのたびに手洗いをしませんので、子供の健康のためにも気を使っただけならと思います。

→【産業環境課長】

猟友会の方に追い払いを依頼できますが、児童館の職員の方も気を配っていただき、サルに遊具を使わせないように周知をしたいと思います。また児童館に遊びにきている子供たちに手洗いを徹底するよう職員にも周知しますので、宜しくお願い致します。

■村長は最初にきめ細かい行政運営ということで、熱心に回っていただきましてありがとうございます。私が思いますのは、議会と村が同じ席で、こういう会議を開くことが大事だと思います。結局私達は、代表を送って議会で予算を検討していただいています。そういったものが見えやすくするためにも、年1回このような機会を設けていただくのであれば、議員さんも一緒に開くことが必要ではないでしょうか。それが一つ。これは開き方の前提です。それから、いつも思っていることですが、住民が自ら学ぶという社会教育が檜原村にはないですよね。図書館とか資料館、それぞれ関係ないところで勉強しようと思えばできますけれども、学校教育と社会教育は視点が違いますので、社会教育の設備、例えば図書館を作る際には公民館的要素を取り入れたものを作るという計画がありました。住民が自ら学び、そして地域の中で活動する。そういう前提を想像しての計画だったと思います。私は市民活動をしておりませんが、何かを調べたいとき、例えば昔のこととか調べるときは、わざわざ他の市町村に行きます。そこには市民活動センターや、図書館にレファレンスサービスといったものがあり、住民が自ら学ぶサポートをする環境ができています。ですが、檜原村には残念ながらそういうものはありません。皆無です。前にもお話したことがあります。昔、各地域に小中学校があった時は、学校に行けば調べられる、教えてもらえる、そういう環境があったかと思います。それが公民館的役割だと思います。今は学校もそれが全くない。また、学びに行くときの移動手段もない。住民を、住民自治を育てる、住民の生活を豊かにするための環境作りという視点が、残念ながら見て取れないです。ぜひ考えていただきたいと思

ます。これは考えるというよりも、憲法で権利として認められた、住民のしっかりとした立場ですので、お考えをお聞かせください。

→【村長】

昨年5月から村長になって1年が過ぎました。4年に1回の選挙は非常に影響力があり、私は選挙の公約、開かれた村政、住民の皆さんと一緒に檜原村を作っていこうと思っております。本日参加されていない議員さんにも声をかけ、住民がどんな考えを持っているか聞いて欲しいという話をしました。呼びかけをし、参加する、しないは個人の考え方によりますが、私としてはできれば一緒に良い村を作っていきたいと考えておりますので、ご承知下さい。

→【教育長】

社会教育、住民が自主的に学ぶことについて、学校教育もそうですが、今は子供たちが自分で学び方を選ぶ時代、教育委員会に社会教育がありますが、今は皆さん学んでくださいという時代ではないと思っています。住民の方がこういう活動をするから、その支援をして欲しいというものが出てくればいいと思っています。今、社会教育事業としていくつか行っていますが、それらも「こういう活動をしたい」というものが形となり支援を行っています。なかなか機会も無い、近くにこういう人たちが集まることも少ないなかで、一緒に学び、趣味を楽しんでいきたいという人が集まって動き出してくれば素晴らしいことですので、それを支援していきたいと思います。皆さんが何をやりたいか、どんどん発信し、動き出したいだけことを期待するところです。教育委員会から、社会教育にこういうものがありますから出てくださいという時代ではないということ、この活動をしたいという、積極的な発信をしていただけたらと思います。以上です。

■社会教育ですが、講座を設けるとかそういうことじゃなく、住民が学びたいと思ったときに、自ら学べる環境づくりということです。例えば、いろいろな活動でコピーをするとき、図書館のコピー、印刷機は使えないですよ。中にある資料を印刷する場合は使えますが、持ち込んだものについては印刷できないというのが大体の図書館です。でも、檜原村の環境を考えたら、そういう場所を作るべきだと思います。今はインターネットとか個人で持って



いる人もいっぱいいますよ。だけれども、持っていない人も市民活動をするわけですから、そういう中での学びはとても大事です。役場もすごくサービス良くて、どうぞ使ってくださいと言ってくださいますが、市民コーナーというものがあれば、役場の中で遠慮しながらやるのではなく、住民がそこでしっかりと仕事ができるという環境がある、とても大事なことだと思うんです。それが公民館という役割、ぜひそういう場を作っていただきたい。コミュニティセンターを小学校跡地に作りましたが、人がいないところには行きませんよ。人がいるところじゃないと行けないです。日頃活動している人は、どんなところでもできます。でも活動していない人の学びも、とても大事なんです。みんながお互いに成長していく。その地域の中の人事を行っている。そういう環境作りを行政にさせていただかないと、私達は日々、どこか行きたいから乗せていくよというやり取りをしながら動いていますが、免許を維持していくのも大変な年齢の方も多いう状況の中、行政の役割は大きいと思います。ぜひ考えていただければと思います。

→【教育長】

施設の活用しやすさについては、少し調整をしていきたいと思います。それから市民活動については教育関係ではないので、行政と調整をしながら、よりよいサービスを提供できるよう調整していきたいと思います。

■ゴミのことについて、意見と質問をさせていただきたいと思います。私の敷地内で、娘が友達と無認可の保育園をやっておりまして、家内とボランティアの方で週3回給食を作っています。その関係で生ごみが大変増えました。数年前に村の補助をいただき10万円の生ゴミ処理機を買い、当時7万円で買った訳ですが、それを今も使って処理をしております。なので、生ごみ処理機について大いに普及を図っていくべきだと、使ってみて痛感しています。ゴミの量も半分ぐらいになります。村長が去年の選挙のときにゴミの減量、特にゼロ・ウェイストについて非常にご理解を示されたと思います。ゼロ・ウェイストについては、先日徳島県上勝町から女性の方がみえて講演をしてくださいました。その話のなかで、やはり補助を出し、機種はわからないけど配置したというお話がありました。具体的な手段として、ゼロ・ウェイスト全体の考え方として、まずそこから始めて、皆さんの意識を変えていく必要

があると思っています。それともう一つ、食用油ですね、使い残し。これは一般の家庭では固めて生ごみとして出していると思いますが、食用油はディーゼルエンジンの燃料にもなります。実際、村内でも使用した油を回収業者にまわしている方がいらっしゃいますので、事業所、家庭もですが、使用済み食用油の回収については、具体的で分かりやすい事業ではないか思いますので、ぜひ推進していただければと思います。宜しくお願いします。

→【村長】

お話のありましたゼロ・ウェイストの考えについて、四国の徳島県上勝町にも視察に行ってきました。具体的な方法についても色々と協議をしていますが、構成団体において全て同じように回収しなければできませんので、檜原村としてできることから取り組んでいかなければならないと認識いたしました。生ごみ処理機については、補助金がありますが、推進していくうえで金額が少ないようであれば少し金額を上げ、修理をしたり、お金をかけずに取り入れ、生ごみを分解していく。檜原村は一人当たりのゴミの排出量が都下ワーストワンということですので、減量、削減推進委員の方からも投書をいただいています。1年かけて検討し、次の段階に進めていきたいと考えております。生ごみ処理機の詳細については担当からご説明します。

→【産業環境課長】

私も先日、上勝町の講演会に参加させていただきました。まずは各家庭から出る生ゴミの量を減らす。そのための一つに、村では先ほど説明した生ゴミ処理機の補助金を出しています。こちらは手動型の生ゴミ処理機を基準にした補助となっています。やはり電動の方がより小さくでき、ごみを減らすことに繋がるというお話も聞いていますので、電動の少し高額なものになりますが、ゴミが減らせる機械を検証、検討し、早急に補助金の見直しを考えたいと思います。また見直しをした際には周知させていただきますので、宜しくお願いいたします。食用油につきましても、村の計画にも載っておりまして、回収している方がいるというお話も聞きましたので、村の中でどういった現状になっているのか確認をして、回収に向けて進めていければと考えていますので、ご了承いただければと思います。

■地域防災計画の改定案について、教えていただきたいと思います。檜原村に災害が発生した際の孤立対策、ライフラインの確保というのが上がっていたと思います。それについて、どういふ方法を考えているのかを教えていただきたいこと、その対策についての進捗状況を教えて下さい。

→【総務課長】

今のご質問に対し回答させていただきます。地域防災計画の改定の孤立対策において、檜原村は橋梁が多いため、橋梁の点検を実施しています。それをランク付けし、すぐに補修が必要なものは補修を行うよう順次対応していきます。またライフラインについては、水道が懸念されると思いますが、水道事業の方では配水管の取り換えを行っています。ポリエチレン管という地震の揺れに強いものを使用し、強い地震で長期間の断水が生じるような場合でも、大事には至らないだろうということで計画を進めています。また進捗状況については、橋梁については今調査をしている段階です。水道管においては、北側は終了、南側の数馬地区から人里地区にかけて工事を進めています。防災計画については今年度見直し、改定する予定です。

■いくつかお聞きしたいことがあります。まず1点目は議会の配信についてお伺いしたいと思います。配信開始というか、住民が見られるようになるのはどのぐらいのタイミングからでしょうか。また本会議場以外の住民ホールで行うような予算とか決算とか、こういったものはどうなっていくのか、あとはライブ配信を考えているのかお伺いしたい。あと、移住体験住宅についてですが、一定期間住んでもらうとお話がありましたが、その期間の家賃、宿泊料みたいなものは発生するのか、その一定期間はどのぐらいなのか、お考えを教えてください。また、総合戦略の作成委託料について、総合計画と同じくらい重要なものだと思いますが、総合計画は一旦差し戻しって感じだったと思いますが、総合戦略と同じようなものにならないのか、委託先が同様で同じようなものが示されるのであれば、時間もお金も勿体ないと思います。最後に観光協会の補助金についてご説明はなかったんですが、たしか予算委員会で増額されたと認識しています。観光協会の事業、どのぐらい増えて、増やした目的等を教えていただければと思います。

→【議会事務局長】

議会配信につきまして回答させていただきます。配信のタイミングとしては6月の議会、6月3日から始まりますが、概ね10日前後で配信できるようになると業者から聞いています。今回が初めての配信となりますので、13から15日頃には配信できるのではないかと考えています。あくまで議会の配信となりますので、委員会や特別委員会などについては今後検討させていただきます。また、ライブ配信についてのお話もありましたが、今回は録画したものを修正しながら配信するものですので、ライブ配信及びYouTube等は考えておりません。以上です。

→【企画財政課長】

続いて、移住体験住宅の件について、期間と料金につきましては現在未定となっています。最短で1週間、最長で2ヶ月程度を考えており、それなりの料金もいただく予定です。次に総合戦略について、第5次総合計画を1年延長し令和6年末までとし、第6次総合計画が令和7年度スタートになります。合わせて、総合戦略についても令和6年末で終了するというので、令和6年度予算に令和7年度からのスタートを見越して予算計上しています。また、戦略につきましては議会等でも総合計画と一緒にできないのか等の提案をいただいております。総合計画の審議会、総合戦略については行政改革推進委員に諮って、今後の計画内容について協議をさせていただきたいと考えております。以上です。

→【産業環境課長】

檜原村観光協会補助金の増額について、主な増額の内容は、これまで1名の人件費の補助を計上していましたが、令和6年度からは2名分の人件費を補助し、今後はエコツーリズムの事務局を担っていただき、エコツーリズム事業の推進を強化していく目的で2名分の人件費を補助として増額しました。

■時間が過ぎているところ申し訳ありませんが、議会の配信の件でもう一点だけ、6月の中旬から配信していただけたとのことですが、傍聴に関わってくることだと思いますので、議会だよりに記載がなかったのを、6月の広報等で住民に周知していただき、傍聴に行けない住民が安心して配信を待てるようにしていただきたいと思います。これは要望です、よろしくをお願いします。

■ご説明ありがとうございます。サルの問題に戻ってしまいますが、子育てを始め、生きがいにも繋がる畑作り、それを荒らすサルの問題ですので、強化していただきたいところですが、質問です。GPSでサルのグループの場所が分かるというお話ですが、それをスマホやパソコンで私達がわかった際に、どういうアクションをしたらいいのか、その追い払いの効果的なものがわかりましたらお教え下さい。

→【産業環境課長】

GPS発信において、今後サルが来たという時に、全般的な対策として、専門家の先生が各地域で講習会を行ったときにもお話しされたと思いますが、怖がるとサルは強気になって威嚇してくると言われています。これは男性、女性、子供関係なく、怖がると自分の方が強いと思い威嚇をするそうです。サルに対し立ち向かうような姿勢で対処して下さいと言われてましたが、実際に立ち向かっていくのは威嚇されると怖くてできないとの意見も多くありました。そんな時は何か武器になるような物を持ち、立ち向かうとサルが引いてくれるようです。棒でもホウキでも何かを持っていく。するとサルも怯えるので、武器になるような物を持っていくのは効果的と考えます。また、子供や女性の方はどうしたら良いか、突然遭遇した際など、いろいろ研究しながら対策を皆さんに周知していきたいと思います。

■ありがとうございます。以前サル対策の講習会に出席した際に、追い払いを個人で行っても効果がない、集団でも、自治会ごとにやらないと駄目だというお話がすごく響きました。意識改革というか、そこをお話しいただきところですが、私達住民も意識改革をしないと

らない、追い払いは1人で頑張っても無理だと知ったので、そのあたりをご説明いただけますでしょうか。

→【産業環境課長】

サルの被害につきましても、全国的に似たような話が多く、地方でもサルの被害に悩まされています。ですが、中にはサルの被害をほとんど無くした地域もあると村に来ている麻布大学の先生から聞いています。島根のとある地域と聞いておりますが、やはり地域全体でサルを追い払うための連携、対策を講じているようです。例えば花火を鳴らせば、そこに人が集まって追い払いをする。そういった連携が成功に繋がっていると考えられているようです。檜原村でも住民の皆さんの意識を高める講習会を定期的に行い、連携を図り、最終的に被害がゼロになるようにと考えています。

■二つほどお聞きしたいことがあります。一つは今の獣害対策について、猟友会の方々が追い払いや駆除を頑張っていることは有難いと思っておりますが、近所の方々の話を聞くと、どれぐらい食べた被害があるのか、どんな対策をしてくれているのかという話をよく聞きます。また、何匹駆除したのか、捕まえたのかなど皆さんが知ることができたらと、成果を次の日、何日かあとでも良いですけど、こういう成果が出ましたとか、何頭追い払いましたとか報告いただけるとありがたいと思っております。それともう一点、最近視覚が弱くなりまして、出かけるときは主人と一緒にいくような状態です。口だけは達者ですが、社会的にできなくなっている人、高齢者もそうですが、そういう人たちの外出対策を、用事ができるように、これから高齢者も増えるので、ぜひお願いしたいなと思っております。高齢者になると、行事をやっている、先ほど帰られた方のようにバスの時間にすごく縛られます。バスがないので来られないとか、会議にも参加しにくいとか、そういう話をよく聞きます。ですから移動手段を、もっと便利にというか、うまく言えませんが、安心して会議に参加できる、帰りもバスの時間を気にすることなく帰れる、そういう移動手段を考えていただけないかと会議のたびに思ったりしています。それからもう一点、私は視覚障害者で、私達は平

和のための行進というのを毎年夏にやっています、それに都心の方から1人、かなり全盲に近い方が毎回参加されています。いつも補助者がついて、お願いして付いていただいていると思いますが、檜原村ではそういう方をお願いする制度みたいな、まだよく調べてないしお願いもしていないので分からないのですが、そういう人（補助を必要とする人）もいるし、年齢を重ねると外出が不便になるので、安心して移動できるような、いろいろ参加できる、そういう手段があるといいな、やっていただきたいなと最近切に思っております。

→【産業環境課長】

まずサルの関係についてですが、有害鳥獣捕獲に関しては、村で動物の種類に対し東京都から許可を得て、許可数の範囲内で行ってまして、サルは年間30頭前後で捕獲しています。直近の被害の状況を考えると、この数では足りない、被害も増えてきているので、東京都に許可数を増やしていただき、生態系に関わる場合もありますので、調整を図りながら、捕獲を強化していきたいと考えております。また、捕獲が成果ではありません。やはり成果というのは畑の被害がなくなる、威嚇する被害がなくなるといったことが最大の成果になりますので、今年度は特に力を入れて対応していきたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。

■猟友会が活動した次の日にでも、こういう成果がありましたと放送していただけると、みんなが喜ぶかと思って質問したんですけど。

→【産業環境課長】

放送、毎週日曜日にやっている有害駆除は、シカが対象になっておりまして、各地区の山の中に入り狩猟犬を放して、全体を囲いながらシカを駆除するものを周知しています。また何頭駆除したとかいう放送は控えさせていただきたいと思います。

■どんなことをしているのかを知りたかったわけで、もう少し内容の周知をしていただけると嬉しいと思います。

→【産業環境課長】

放送、周知の仕方については改善させていただきます。

→【福祉けんこう課長】

外出支援のことについてお答えさせていただきます。この問題については、担当課にも方々から外出支援についての質問や要望が来ております。高齢者等の外出支援サービス事業というものをやっていますが、福祉けんこう課だけではなく、村全体で、いろいろな外出支援サービスを行っていかねばいけないというところに来ております。今ある要綱をもとに更なる支援の充実が図れるよう、今後考えていきたいと思っております。

■先程のお話について、先に帰られた方がいましたが、私をもっと運転が上手だったらお送りしますって声をかけたんですが、かなり切実な問題だと思しますので、もう少し真剣取り組んで欲しいと思います。今すぐに答えが欲しいわけじゃないんですが、重く受け止めて欲しいです。以上です。

■今の高齢者とか、障害者の移送については、全国で福祉サービス事業をNPO法人団体がやっていますよね。そういうところに村として呼びかけていくことも必要だと思います。国がある法律を改正してできるようにしたんです。多分、福祉の関係の人は制度を知っていると思うので、そういうところに積極的呼びかける、あるいは村で作るなりしてやればできると思います。ただ、バス会社とかタクシー会社は結構反対をしています。それを乗り越えて導入しようとしているところはいっぱいありますので、少し勉強してみてください。それをやれば檜原村で、高齢者や障害者あるいは外出困難者、これを救済することがすぐにでもできる事例がありますので、研究してください。最後にサルの問題ですが、これは日本全国にある問題なので、自治会ごとに追い払うといいましても、まずは根本的な方法を考える必要があると思うんですね。クマが出た場合も果樹を放置しているから伐採する。そうすると食べるものがないので家に入る。サルも同様です。山に実のなる木があって、適正に野生動



物を保護できる体制、その発想っていうか、仕組みを作っていないと、その都度の対処療法になってしまうので、根本的にどうしていくかということを、もっと考えた方がいいと思います。都会ではムクドリの問題がありますけれども、ニュージーランドでは、ムクドリがとまりやすい木をわざと作ってそちらに移動させるとか、そういう対策をしています。日本でも、そういうことをどんどん取り入れて、野生動物と住民が共生できるような環境を作っていけたらと思います。あと生ごみ問題はいろいろありますが、日本でも各自治体でごみ施設を作って、生ごみを堆肥にする。私は全部コンポストに入れて土に戻しています。でも土のない集合住宅等に住んでいる人、知らない人はゴミとして出すわけですよ。生ごみを堆肥化、飼料化すること、そういうことも考えていただきたいと思います。事例をもっと研究してもらいたいと今日の質疑応答を聞いて思いました。あと最後に教育長、住民集会で子供たちとの対話集会をしようと言っていました、あれはどうなりましたか。議会の配信について、インターネット環境がもう20年前にはできているわけですから、なんでライブ配信しないんですか。ライブ配信、みんなやっていますよ。東京都議会もやっています。事務局長に言っても仕方ないけど、こういう意見があったことはぜひ伝えてもらいたい。行政も対話集会をやっていますが、議員が出て地域の住民との対話集会もあちこちでやっていますから、意見があったことは事務局長がぜひ議員の皆さんに伝えていただきたいと思います。以上です。

#### 【司会】

それでは時間も超過しておりますので、この辺で終了させていただきます。最後に吉本村長から皆様にご挨拶をお願いいたします。

#### →【村長】

本日はお忙しいところ、村民全体会議ご出席をいただきありがとうございました。皆様方の要望や意見につきましては、村政に反映させていただきたいと思います。また、私は本日に備え、皆様から出る質問を想定してきました。最近の新聞等で、檜原村は消滅の可能性がある自治体であると載っていました。これは10年前にも檜原村が消滅自治体であるとされ、10年たっても脱却できていないということになります。統計は間違いではないと認識しておりますが、消滅の可能性があると言われた自治体は、こらからの行政に悪影響が出なければ良いと感じました。檜原村が消滅しないよう、これからも移住定住政策を行い、人口を増

やしていきたいと考えています。実は伊豆七島の7町村が10年前に消滅自治体といわれていましたが、実際、その問題は解消しております。東京都は島嶼対策室を立ち上げ、手厚い対策をして、その問題を脱却しました。檜原村と奥多摩についても同じように、東京都に担当を作り対策を講じていただけるよう、また脱却できるように呼びかけをしていきたいと考えております。檜原村は135年の歴史ある村ですので、これからも住民に開かれた村政、新しい檜原村を作っていくために頑張っまいますので、住民の皆様もご協力をお願いしたいと思います。今日は大変ありがとうございました。これからも宜しくお願いいたします。ありがとうございました。